

担当センター名		東北地方ESD活動支援センター
プロジェクトのテーマ		地域の素材から考えるESD/SDGs教育の可能性
プロジェクト期間		7月～12月
達成目標		①地域の素材や地域課題をテーマとして取り上げ、授業に反映させる視点を学び合う場を形成する。 ②山形県の素材を取り上げることで、山形県内でESDに関心ある層や東北ESD拠点（16か所）の参画を促し、山形県内におけるネットワークの拡充を目指す。
コアメンバー(団体・個人)		見上一幸氏（ESD学会会長、宮教大名誉教授） 新妻弘明氏（東北大学 名誉教授） 市瀬智紀氏（宮城教育大学教員キャリア研究機構 教授、ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム） 渋谷晃太郎氏（岩手県立大学総合政策学部政策講座 教授） 藤公晴氏（青森大学社会学部 教授） 浅野亮氏（気仙沼市・宮城教育大学連携センター 主任運営員） 齋藤修一氏（只見町教育委員会 元教育長）
実施内容	勉強会①	【実施日】8/9（月） 【参加者】やまがたSDGs・ESD研究会 【内容】企画打合せ
	勉強会②	【実施日】10/23（土） 【タイトル】第1回地域の素材（山形）から考えるESD/SDGs教育の可能性～地域編～ 【参加者属性】学校関連、ユネスコ協会、行政、企業、温暖化センター・推進員、NPO 【地域ESD拠点】只見町教育委員会、MELON、NPO法環境パートナーシップいわて、（一社）あきた地球環境会議、いわきユネスコ協会 【内容】自然体験プログラムを実施する山形県内の2つの団体から話題提供をいただき、事例をもとに参加者と意見交換を行った。
	勉強会③	【実施日】10/30（土） 【タイトル】第2回地域の素材（山形）から考えるESD/SDGs教育の可能性～学校編～ 【参加者属性】学校関連、ユネスコ協会、行政、企業、温暖化センター・推進員、NPO 【地域ESD拠点】只見町教育委員会、MELON、会津ユネスコ協会、いわきユネスコ協会、（一社）あきた地球環境会議 【内容】やまがたSDGs・ESD研究会よりESDプログラムを3事例紹介いただき、これをもとに参加者と意見交換を行った。

	<p>実践活動</p>	<p>【実施日】11/3（水・祝） 【タイトル】第3回地域の素材から考えるESD/SDGs教育の可能性～東北の連携実践～ 【参加者属性】学校関連、ユネスコ協会、行政、企業、温暖化センター・推進員、NPO 【地域ESD拠点】只見町教育委員会、MELON、会津ユネスコ協会、いわきユネスコ協会、仙台ユネスコ協会、（一社）あきた地球環境会議、八戸工業大学第二高等学校、（一社）日本キリバス協会、気仙沼ESD/RCE推進委員会 【内容】東北地方の地域ESD拠点による連携事例を取り上げ、他の主体との連携によるESD活動の充実化について学び合う場を設けた。</p>
	<p>勉強会④</p>	<p>【実施日】12/14（火） 【参加者属性】上記コアメンバー 【地域ESD拠点】仙台ユネスコ協会、気仙沼ESD/RCE推進委員会 【内容】振り返りミーティングを行った。</p>
<p>成果</p>	<p>目標達成度</p>	<p>①発表によって取組が認知され、活動の価値を認識する場となり、学び合いの場が形成できた。 ②地域ESD拠点および山形県内の活動者、山形県教育センターとの連携により企画を運営することができた。その後、山形県内から個別相談もありネットワークの広がりが感じられた。</p>
	<p>プロジェクト関係者(コアメンバー、その他の参加者、実践活動の対象者)の変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人や活動をつなぐハブとしての東北地方ESD活動支援センターの役割が改めて認知され、評価する発言があった。 ・本プロジェクトを通して山形県内の関係者とのネットワークが生まれた。 ・山形県鶴岡市から相談を受け、本年度中に市役所職員向けESD勉強会を実施する。「鶴岡型ESD」創出に向けて次年度以降も継続して連携を行う。 ・今後の連携に向けてコアメンバーから具体的な提案があった。
<p>今後の課題</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「勉強会」回数の設定→実情に合わせた企画へ ・『地域ESD拠点同士の学び合い』の設計→東北以外の地域ESD拠点の参加はなかった。